

## 【熊本S. J. C. D. 例会 抄録】

**演 題** 水平的ブラキサーに全顎的修復治療を行ったケース

**演者名** 古田洋介

**日 付** 2017年3月28日

**keywords**

1. 水平的ブラキサー
2. バイラテラル・マニピュレーション・テクニック
3. ゴシックアーチ
4. クローズドロック

### 抄 録

昨年、「顎関節症Ⅲ型患者に全額修復治療を行った一症例」というタイトルで発表しましたが、その後一年の経過報告を含めて、前の症例発表とは少し切り口を変えて発表させていただきます。

ブラキシズム、偏咀嚼癖、TMDや顎位が不安定、不明など、どのような顎位の診査、診断を行い、どのような治療計画を立て、どう進めば良いか？日常臨床では、戸惑いながら、手探りで進んでしまうこともあると思います。

しかし、どんなに複雑で難しそうなケースであっても、実はここを外さなければ大丈夫というような単純明快な答えがあるのではないかと思ったりすることもあります。

このケースは66才女性強度の水平的ブラキサーで、偏咀嚼癖、関節リウマチがあってTMDの症状もあり、顎位も不安定（不明）という中で、悪戦苦闘しながら主訴である審美的な改善を全顎的に行ったケースです。結果がこれで良かったかどうかは今はまだ分かりませんが、経験と学識豊かな先生方のご指導と、悩める若手先生方の何かの役に立てば幸いです。